

令和7年3月31日

保護者の皆様
地域の皆様

世田谷区立緑丘中学校
校長 小林 智明

令和7年度に向けた改善方策、前年度の改善方策について実行した改善結果
(学校関係者評価委員会評価結果の報告を受けて)

先日学校関係者評価委員会から、学校関係者評価結果の分析と報告を受けました。良好な評価とともに、改善を図る点について提言も受けました。

校長として寄せられたご回答やご意見をしっかりと受け止め、具体的改善方策を考え、次年度の教育活動に生かすことをお約束します。

記

学校評価委員からの提言と次年度に向けた改善方策

	学校評価委員会からの提言	校長として次年度に向けた改善策
I 基本方針と方策について	1. 学習指導の充実「教育DXと探究的な学びに重点を置く」	「せたがや探究的な学び」について今年度も全教職員にその理念と具体的な方法について研修を行った。次年度も継続して探究サイクルが授業内で実践されるよう、研修担当職員を中心に内容を充実させる。 「教育DX」担当教員が昨年度は環境整備に努めたが、今年度は更に組織的に学力向上に向けた取組を行っていく。また、保護者への状況の説明、情報発信を次年度は強化していく。
2. 生活指導の充実 「自他を敬愛し、協力し、責任感の強い生徒」の育成	教職員ヒアリングにおいて、いじめについて質問したところ、学校側としても…問題意識は持っております、いじめの原因として生徒間のコミュニケーション不足・問題があるのでないかと考えられる。	生徒間のコミュニケーション・友情・絆を強めていくための構成的グループエンカウンターの活用、SCを活用した教育相談、人権意識醸成のための人権教育、学級での面談・相談等を通して、いじめの未然防止、早期発見に全教職員で取り組んでいく。
3. 豊かな心の育成「自ら考え、正しい判断や行動のできる生徒」「挨拶、言葉遣い、表現力などが身についた生徒」「生命を尊重し、人の心を思いやる生徒」の育成	生徒アンケートの「進んでいきたい」という項目に対し、肯定的な回答が9割近くを占めており、かなり意識されている	挨拶の指導は全教職員で徹底しているところであり、その成果がしっかりと表れていると思われる。継続して大切にしていきたい。

	ことが分かる。学校関係者評価委員会でも、緑丘中学校の生徒はよく挨拶をしてくれる、という肯定的な意見が目立った。その一方で、「自分には自信をもてるものがある」という項目に対し、肯定的な回答は6割から7割程度となっており、自己肯定感を高める活動が必要だと考える。	また、自分に自信をもてるものがあるという生徒の育成については、教科の授業や特別活動等を通して自尊心を育む機会を意図的に多く設け、非認知能力の育成に努めていく。
--	---	---

(4) 進路指導の充実 「自己理解ができ、自分の進路を選択できる生徒」の育成

	学年による差が大きい項目もあり、例えばキャリア教育について「学ぶことが楽しい」という設問に対して、1年生・3年生では否定的な回答（「あまり思わない」「思わない」の合計）が2割程度なのに対して、2年生は4割程度ある。これは、3年生はキャリア教育を意識してくることや、現在の1年生は小学校の頃からキャリア教育を受けてきている違いが表れていることも考えられる。	本校はキャリアパスポートを整備し、キャリア教育に力を入れている。2年生の結果は真摯に受け止めなければならない。一人一人が社会の担い手として自らの課題に向かい、判断して行動できる生徒の育成を、中学校3年間を通じて断絶せず行えるようにしていく。 また、全学年においてキャリア・未来デザイン教育を実践し、それが生徒の実感として現れるよう、取組に工夫を加えていく。
--	---	---

II 共通項目アンケートの評価

	【③地域の方々のアンケートより】 目立っていたのが、地域との連携に関する項目であった。例えば、学校協議会や学校運営委員会に関する設問では、「分からない」が4割を占め、否定的な回答を合わせると、6割近くになっている。これらについては、生徒や保護者の自由記述からも見られる内容であり、3者が課題と感じている部分もあると考えられる。	学校協議会や学校運営委員会の情報発信の充実が求められている。現状でもHP等を通じて行っているところだが、さらに細やかに紙面などでも情報を発信し、多くの方に本校の教育活動等を理解していただく機会を増やしていく。 学校協議会や学校運営委員会の会員の方には、より積極的に本校の教育活動に参加していただけるよう、協力を仰いでいく。
--	--	--

III 教員による自己評価について

	「学校経営方針」について、明確に示されていると回答（「とても思う」「思う」の回答）した教職員の割合は100%であり、教職員に共有されていると理解できる。	年度当初に「学校経営方針」について理解を促した。教職員は方針に基づいて各分掌や学年、学級の目標を設定したり、具体的な取組を実行したりしている。次年度も同様の結果が出るよう取り組んでいく。
--	--	---

IV 独自項目を踏まえた学校関係者評価委員会としての総合所見

	アンケート結果を見ると、3者の意識が一致している項目も多かったが、意識に開きが見られた項目もあった。特に地域との連携については、3者とも課題意識が見られたので、この点について取り組んでいくと、3者の認識も近づいていくのではないだろうか。	地域との連携については、緑丘中学校が今後発展していくためには欠かせないことである。現在できている職場体験や避難所運営訓練等の内容を更に充実させていくとともに、新たに取り組めることについても視野を広げていきたい。
--	--	---

V 前年度の改善方策について実行した改善結果

- 働き方改革に取り組み、校務分掌を整理し、一定の教職員に仕事が偏らないように役割を明確化し、全体のバランスを考慮する。
⇒少しずつではあるが仕事の偏りが解消しつつある。今後も継続してより良い組織づくりを意識していく。
- 教職員の ICT スキルの向上を次年度も図っていく。「教育 DX」について担当する教職員を指名し、組織的に学力向上に向けた取組を行っていく。
⇒「教育 DX」担当職員を中心に、ICT スキルの向上に努めた。今年度は ICT インフルエンサーを中心に、学力向上のために教育 DX を活用し、学習習得の効率化を進め、生徒の学力向上に努めていく。